

特別支援教育の視点を生かした

全ての子供が活躍できる 保育及び授業づくり

- 学級担任と通級による指導担当教員との
連携の充実を目指して -

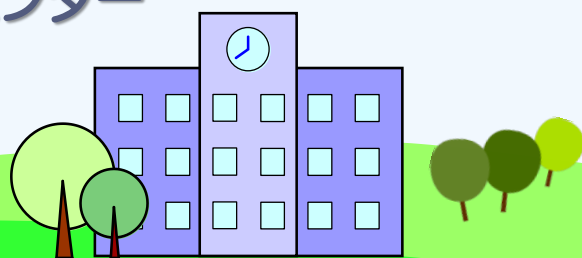
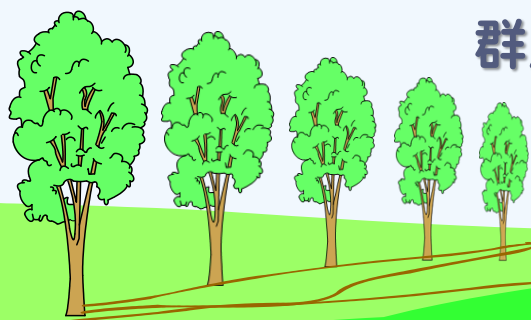
「障害者の権利に関する条約」に掲げられた教育の理念の実現に向けて、今回の学習指導要領の改訂では、特別支援教育に関する事項の示し方の充実が図られました。

文部科学省の統計調査によると通級による指導を受ける児童生徒数は毎年増加し、平成29年度は、初めて10万人を超えました。また、平成29年3月公示の幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領では、総則の中に、特別な配慮を必要とする幼児児童生徒への指導に関わって、障害のある幼児児童生徒などへの指導の項目が設けられ、障害の状態等に応じた指導の工夫について示されました。

新たな教育要領・学習指導要領解説には、生活上や各教科等の学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫が具体的に記述されました。これらの工夫を行うことは、障害のある幼児児童生徒のみに留まらず、障害のない幼児児童生徒の教育の充実にもつながります。

当センターでは、平成30年度経験者研修受講者に対して実施したアンケート結果に基づき課題の解決を目指して、本資料を作成しました。なお、通級による指導担当教員との連携に関する内容は、研究協力校による授業実践を踏まえて作成しました。

群馬県総合教育センター
平成31年3月



I. 県内の現状

※アンケート回答者
 幼稚園等教員、小・中学校2年目・5年目教員 387名
 (通常学級担任349名、担任外31名、特別支援学級担任6名、通級指導担当者1名)

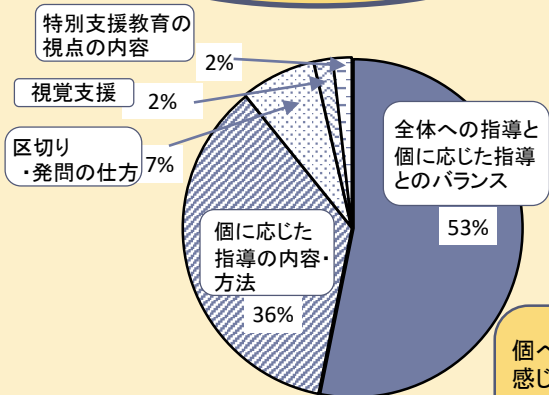
特別支援教育の視点を生かした授業づくり



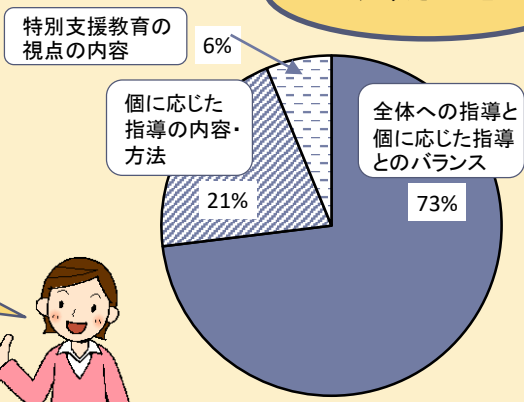
特別支援教育の視点を生かした授業づくりを行ってみたいと思うか。



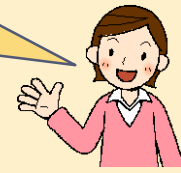
うまくいくようにするために知りたいこと



知りたいこと

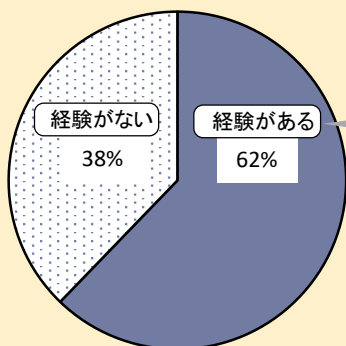


個への支援の必要性を感じながらも、予定どおり全体への指導が進みにくくなるといった状況があるようですね。

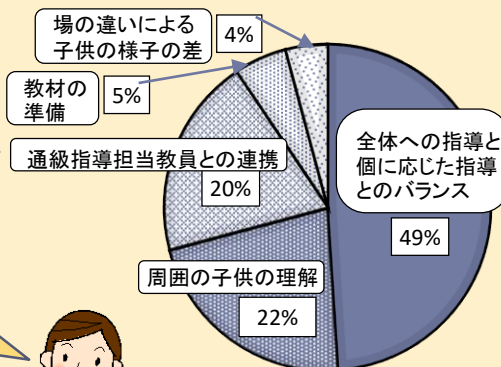


特別支援教育の視点を生かした授業づくりと通級指導教室との連携

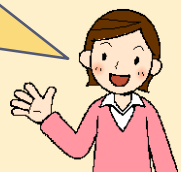
特別支援教育の視点を生かした授業づくりがうまくいっている教員で、通級による指導を受けている子供の担任経験の有無



通級による指導の学びを学級で生かそうとするとときに課題と感ずること



通級指導担当教員と連携が図れれば特別支援教育の視点を生かした授業づくりのヒントが見付かりやすくなりそうですね。

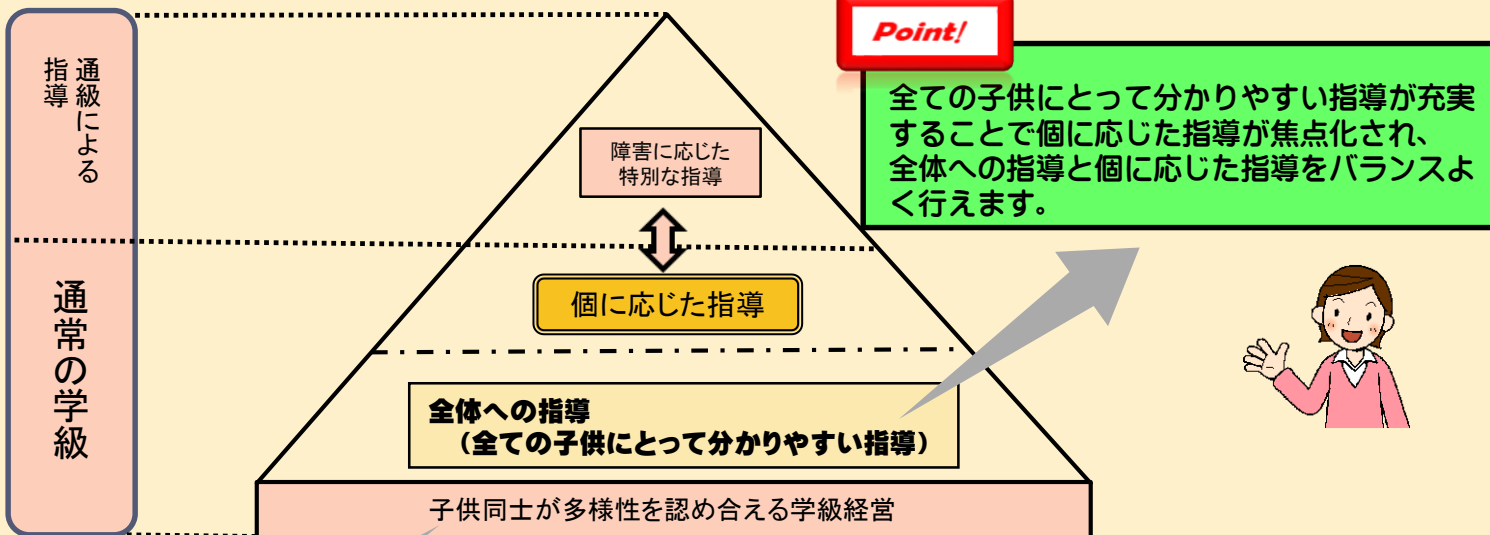


課題となること

- 全体への指導と個に応じた指導とのバランス
- 周囲の子供の理解
- 個に応じた指導の内容・方法
- 教員間の連携

Ⅱ. 課題の解決に向けて

全ての子供が活躍できる授業づくりのイメージ



子供同士が多様性を認め合える学級経営のために...

学校サポートパッケージ (注)

◎教師が友達への関わり方のモデルとなっていることを意識する。

- 一人一人の子供を肯定的に受け止め、気持ちに寄り添う関わりが子供に伝わる。

◎教師と子供一人一人との信頼関係を大切にする。

- 意図的にほめることのできる場面をつくり、認められていると感じられるようにする。
- 困ったときには、いつでも教師に伝えればよいという発信を続け、子供が安心感をもてるようにする。
- 1日に1回は全ての子供に話しかけることを心掛ける。(健康観察の時間などの利用)



◎相手のよさを知る機会を意図的に設ける。

- 互いのよさを認め合う機会をつくる。
(例) 一言リレーをする。
簡単なテーマに沿った一言を座席順に相手に伝えていく。
(例) 帰りの会の「いいところ探し」

【一言リレー】
(テーマの例)
・好きな食べ物
・好きな動物

[学級経営参考資料]
群馬県総合教育センター教育研修員研修
「教育研修員の報告書」
<http://www.nc.center.gsn.ed.jp/>

学級経営で
うまくいったこと

～経験者研修アンケートより～

・子供たちがどのようなことで困っているのか子供たちの目線に立ち、考えました。
(小学校2年目教員)

・友達との関わり方を具体的に示したらトラブルが起きなくなりました。
(小学校5年目教員)

・子供それぞれの得意なことでたくさん活躍できるようにしました。
(中学校5年目教員)



(注)「学校サポートパッケージ」群馬県教育委員会特別支援教育課 平成31年3月発行(「1 学校サポートパッケージ」)
http://www.nc.gunma-boe.gsn.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=1360
「学校サポートパッケージ」との関連を示しています。次頁以降、同様に示します。

授業を行う際の環境整備

学校サポートパッケージ

情報の精選・整理

【視覚情報の精選・整理】

- ◎黒板の周りの掲示物を少なくしたり、教室の棚等には目隠しをしたりする。
- ◎かばんや給食着、絵の具などの置き場所をラベルで示したり、机の位置をテープで示したりする。
(水筒なども含め全員が所有するようなものの置き場所を決めて示す)
- ◎机に出すものを限定する。

※教室の棚は模造紙や布などで目隠しをする。



※ロッカーの中に置くものの名称をラベルで示す。



※机の位置を示す目印を床に貼る。



【聴覚情報の精選・整理】

- ◎端的・明確に指示を出す。
- ◎テニスボールで椅子の脚を覆い、音を軽減する。

【指示の出し方】

※「何をどのようにするのか」を具体的に知らせる。

- ・「ちょっとやってみよう」→「8ページの3番までやってみよう」
→「1回やってみよう」
- ・「そこに置いてください」→「先生の机の上に置いてください」
- ・「少しやってください」→「10時20分までやってください」
→「長い針が3までやろう」

☆指示を聞くことが難しい子供には...

- ・指示を出す前に「大切なことを言います」などの前置きをして意識を教師に向けさせてから指示を出す。

☆周囲の音と聞き分けることが難しい子供には...

- ・ノイズキャンセリングイヤホンなどを使用する。

座席位置・立ち位置の工夫

◎子供の実態に応じた座席配置の工夫をする。

<指示を聞き取ることは難しいが、友達の動きを見て行動できる子供の座席(A)>

- ・モデルとなる子供が隣や斜め前にいるようにする。
→やることが分かり、安心して取り組める。

<注意の持続が難しい子供の座席>

- ・個別に言葉を掛けたり、ノートを確認したりするなど、教師が支援をしやすく、子供が刺激を受けにくい場所にする。
→やることに注意を向けて取り組める。



◎指示を伝えやすくしたり、一人一人の子供の状況の把握をしたりするために、教師の立ち位置を変える。

- ・大事な指示を出すとき→全ての子どもを見渡せる位置で、注目を集めてから指示を出す。
- ・机間支援のとき→個に支援するときには、常に全体が見える位置で支援をする。子供が個々に取り組んでいるときには教室の四隅に立ち、一人一人の子供の取り組み具合や表情などを把握する。

注意を促すための工夫

- ◎「めあて」につながるクイズやゲームをする。
- ◎フラッシュカードのように資料などを一瞬見せて、「何、それ？」と子供が思うようにする。



☆「めあて」を意識することが難しい子供には...

- ・板書した「めあて」をみんなの前で読み上げる係を担当してもらう。
- ・「めあて」の内容を記した紙(両面テープ付き)をノートに貼り、手元で確認できるようにする。

☆教師の話を中心して聞くことが難しい子供には...

- ・名前を呼んで、注意を向けてから話す。
- ・全体に指導した直後にそばに行き、分かる言葉に換えて伝える。

実物や図、写真など視覚的な提示

- ◎見せたい物の背景には余分なものがないようにする。
- ◎調理や作業、実技、実験のポイントを動画や実物投影機で示す。



大事な部分に色を付けるなど、焦点化して示すようにします。



☆全体での指導のみで理解することが難しい子供には...

- ・全体で示した動画を携帯用の機器(タブレット端末)を活用し、子供のそばで再度、スロー再生して示す。

ゴールの明確化

- ◎本時では、何をするのかを視覚的に示す。

- ・単元全体の学習計画や課題と本時の学習課題の位置付けを明確にして示す。

今日仕上げる原稿



新聞づくりの中で、今日は赤枠で示した部分の原稿を仕上げます。



学習の見通しがもてることで、子供は安心できます。



☆本時の学習の見通しをもつことが難しい子供には...

- ・学習スケジュール(手持ち用)を机の上に置く。

キーワード、言葉のまとまりの提示

- ◎文の中の着目させたい言葉を丸で囲み、はっきりさせる。
- ◎言葉のまとまりを文節で区切ってスラッシュを入れ、はっきりさせる。

ぼくは、そつとなでてみた。
赤く輝いていた。
うさぎの目はルビーのように

ぼくは、そつとなでてみた。
赤く輝いていた。
うさぎの目はルビーのように

☆読む場所が分からなくなる子供には...

- ・スリットの使用
- ・音声付教科書、マルチメディアデージー教科書などの活用

※音声付き教科書

「NPO法人テストと学習環境のユニバーサルデザイン研究機構」

<http://www.udlte.or.jp/resource/publications/textbook.pdf>

※マルチメディアデージー教科書

「公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会」

<http://www.dinf.ne.jp/doc/daisy/>

学校サポートパッケージ

構造的な板書、板書事項の精選

- ◎めあてや学習問題、子供の考え、まとめなど板書事項を精選し、構造的に分割して書く。
- ◎ポイントは色チョークの枠で囲むなどのルールをつくる。
- ◎矢印などのカードを使い、子供が読んだり、書いたりする部分を示す。

<p>めあて</p> <p>2けたの数のわり算の仕方を考えよう</p> <p>問題</p> <p>96÷3は、どのように計算するか？</p> <p>自分の考え</p>	<p>友達の考え</p> <p>9は10のまとまりの9→9÷3=3 10のまとまりが3だから30 6はバラの6→6÷3=2 30と2を合わせる。 30+2=32</p> <p>ポイント</p> <p>十の位と一の位に分けて考える。</p>	<p>まとめ ←</p> <p>2けたの数のわり算の仕方</p> <p>↓</p> <p>①十の位と一の位に分けてわり算する。 ②答えをたし算する。</p>
--	---	---

☆板書を写すことが難しい子供には...

- ・ポイントだけに絞って書くように伝える。
- ・板書の写真を配付する。

板書を写しやすくしたワークシート

- ◎板書計画を基にした書き込む量が異なるワークシートを2種類程度用意しておき、子供の状況に応じて提示できるようにする。

教科書 P98 「大きい数のわり算」 7/8 (水)

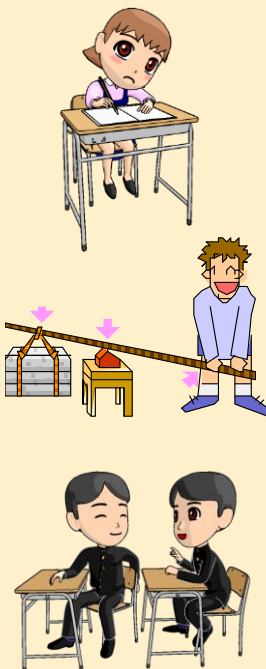
<p>めあて</p> <p>問題</p> <p>自分の考え</p>	<p>友達の考え</p> <p>ポイント</p>	<p>まとめ</p>
--	--	-------------------

教科書 P98 「大きい数のわり算」 7/8 (水)

<p>めあて</p> <p>() のわり算の仕方を考えよう</p> <p>問題</p> <p>96÷3は、どのように計算するか？</p> <p>自分の考え</p>	<p>友達の考え</p> <p>ポイント</p>	<p>まとめ</p> <p>2けたのわり算の仕方</p> <p>↓</p> <p>① _____</p> <p>② _____</p>
---	--	--

思考を深めるための工夫

- ◎考えるための材料を複数用意しておく。
- ◎自分の考えをもつための時間を確保する。
- ◎自分の考えを表現する多様な方法を用意しておく。
(文にして考える、図に書いて考える、実際にやりながら考える、など)
- ◎自分の考えを他者に伝える活動を通して自分の考えを明確にしていけるようにする。
- ◎他者の考えと自分の考えとを比べる活動を通して、新たな気付きや考えがもてるようにする。



☆考えをまとめたり、書いたりすることが苦手な子供には...

・考える視点や道筋を明確にしたり、順番を示したりしましょう。

手順1 グラフ1で気付いたことはなんですか。一番多いものに注目してみましょう。

家庭ゴミの一番は
手つかずの食品、二
番は、食べ残し。

手順2 グラフ2から自分にできそうだと考えたことはなんですか。

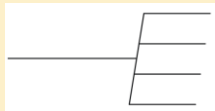
ゴミにならないよう
に、出されたものは、全
て食べるようにする。

学校サポートパッケージ

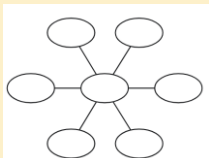
様々な考える手段や方法の用意

◎対話を通して考えを深めることができるよう、まずは、自分の考えをもつための手段や方法を用意し、それぞれが得意な方法で考えられるようにすることも大切にする。

様々なシンキングツール



くま手チャート



イメージマップ

☆友達と一緒に調べたり、考えたりすることが苦手な子供には...

・一人で調べたり、一人でじっくり考えたりすることを認め、その子の考えるスタイルを大切に、しっかりと自分の考えをもてるようにする。そして、自分の考えをもててから、友達との話し合いを通し、考えを深めたり、新たな考えに気付いたりできるようにする。

◎文章を読んで考える方法だけでなく、様々な方法で考えることができるように学習活動を工夫する。

[動作化]

同じ動作をさせ、その時の気持ちを聞く。

(例)

生死に関わるような傷を負い、足を引きずりながらも、「ありがとう、でも私は大丈夫」と答えた主人公の気持ちを考えよう。

[劇化]

場面どおりに劇をして、その時の気持ちを聞く。

(例)

くまさんになったつもりで、2の場面を演じてみよう。

[役割演技]

登場人物になり、次のストーリーを創り出していく。

(例)

乗り始めたばかりのブランコで、少し前まで独り占めしていたAちゃんから「貸して」と頼まれたら、あなたならどうしますか。実際の場面で演じてみよう。

☆動作化、劇化などを苦手としている子供には...

・イラストや挿絵に、登場人物の気持ちや思いを書き込ませる。
・T2の教師と別室で動作化や劇化に取り組む。



多様な学び方を通して思考を深める具体例は...

平成28年度 長期研修員研究報告書

「小学校通常学級において、どの子も「できた」「分かった」と実感し、意欲的に取り組める指導の工夫」

話し合いの進め方やルールの提示

◎話し合いの進め方などの枠組みを整え、どの子も安心して活動に取り組めるようにする。

誰でも進行ができるよう
にするための進行台本

[話し合いの進め方]

1 ○○について、話し合いを始めます。進行は(名前)です。よろしくお願いします。

2 ○○について、自分の考えを、△つ、付せん紙に書いてください。□時◇分までをお願いします。

話し合いの際のルール 1

[意見の出し方]

1 はじめに結論を発表する。
(私は「○○」に賛成です。)

2 次に理由を発表する。
(なぜなら△△と思うからです。)

話し合いの際のルール 2

[付箋を使って話し合うとき]

付箋を貼ってから、自分の意見を発表する。



◎話し合いを深めていく手立てや方法を示す。

話し合いが促進する具体例をまとめたプリントの配布

話し合いを進めるポイント

○友達の意見や発表に質問してみよう。

例 「△△さんが提案した遊びは、何人位で遊ぶと楽しいのですか」

○友達の意見や発表と同じでも、自分の考えを付け加えたり、違っている点を探したりして発表してみよう。

例(付け加える時)

「◇◇さんが、当番を決めるとよいと言った意見と同じ考えです。私は、この方が、みんなが責任をもってできると思います」

○たくさん出た意見の共通点を探してみよう。

例 「劇や歌の発表、クラス対抗伝言ゲームも個人の発表ではなく全員で取り組めるという点で同じだから、

この点で活動を絞ってはどうかな」

☆話し合いに参加することが苦手な子供には...

- ・友達の意見を参考にしてもよいことを伝える。
(「私も、○○さんと同じ意見です」)
- ・自分の意見をメモにまとめてから、話し合いに臨めるようにする。
- ・事前に話し合いのテーマを伝え、自分の意見を考える時間が十分にもてるようにする。



保育では...

◎話し合いに必要な「話を聞く力」を育てていく。

話を聞いてもらえる経験がたくさんできるようにする
→聞いてもらった嬉しさを体感できた子供は、相手の話を聞くことを大切にできるようになる。



発表できた子供を認めるだけでなく、同時に友達の話をよく聞いていた、その他の子供も認める。

→人の話を聞いている自分に気付けるようにする。

☆自分の話を聞いてもらうことが、最優先になる子供には...

- ・「○○さんの後に、お話を聞きます」など、必ず聞いてもらえるという見通しをもたせ、自分の番まで待てたときには十分に称賛する。

まとめ・発表の工夫

学校サポートパッケージ

◎友達同士で、「分かったこと」や「気付いたこと」などを伝え合い、考えを整理してから書くようにする。



◎発表の仕方や聞き方を視覚化して黒板に掲示する。

- 全ての子供が発表しやすくなるように発表方法を選択できるようにする。
- 友達の発表に集中できるように、うなずきながら聞くなど、聞き方を工夫して提示する。

<発表の仕方>

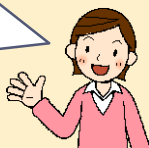
- 手を上げて一度だけ「はい」という。
- ジェスチャーを交えたり手書きのイラスト、図で示したりして発表してもよい。
- クラスのみんなを見ながら話す。
- (発表原稿やノートは見てもよい)
- 後ろの席の人に届く声の大きさを話す。
- 最後は「これで発表を終わります」と言う。



<発表の聞き方>

- 発表している人の方を見る。
- 発表している間は、話をしない。
- 質問や発言は発表の後にする。
- 同じ考えの時にはうなずき、よいと思ったところはグッドサインをする。
- 発表が終わったら拍手をする。

子供の発表がうまくいかなかった時には、前よりよくなった点や頑張っていた姿などを認め、称賛するとよいです。



☆発表や人前で話すことが難しい子供には...

- 練習時間を設けたり、得意な教科で発表できるようにする。
- 事前に発表原稿を読んで録音し、発表の場で再生することを提案する。

振り返りの工夫

学校サポートパッケージ

◎振り返りの際の視点を掲示しておく。

【振り返りの視点】

- 分かったこと
- できるようになったこと
- 新たに発見したこと
- 疑問に思ったことや調べてみたいこと

◎表現方法を選択できるシートを用意する。

分かったこと・できるようになったこと・気付いたこと

○イラスト、計算式、図、表



○文章

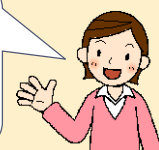


◎単元の「めあて」に対する自己評価表を用意し、チェックできるようにする。

めあて: 伝統文化に親しもう

• 昔の人と今の人の文化の違いが分かった。	○
• 歌舞伎や狂言の言葉の響きやリズムで音読できた。	△
• 歌舞伎や狂言の言葉の響きやリズムを楽しめた。	○

自己評価表を活用することで、書く負担や時間を軽減したり、達成状況を視覚的に把握できるようにしたりすることができます。

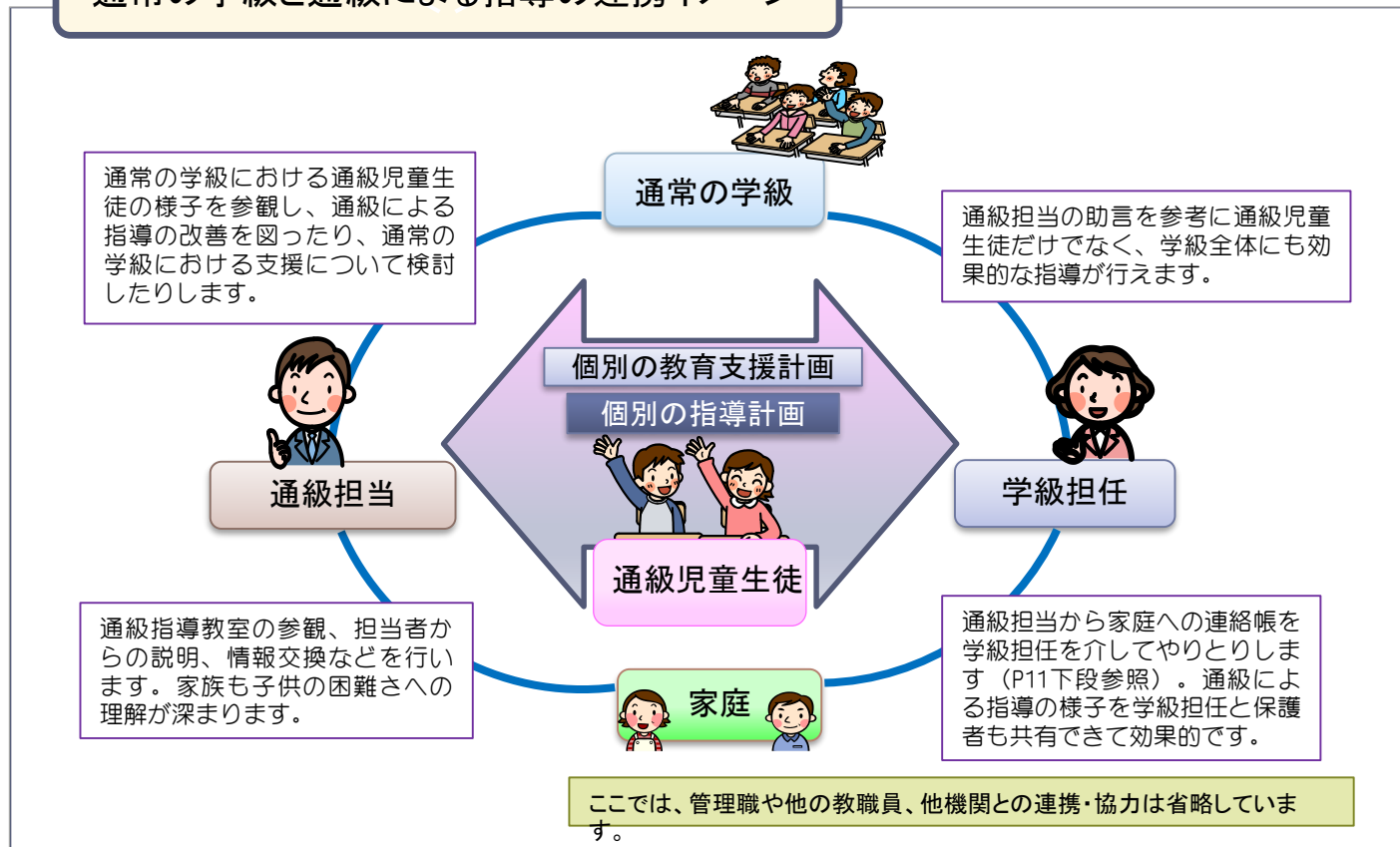


☆今日の授業の学びを振り返り、「分かったこと」「新たに気付いたこと」などをノートにまとめることが難しい子供には...

- 板書されていることの中から、分かったことや「一番いいな」と思ったことを選んで書くようにする。

IV. 通常の学級と通級による指導の連携 ～研究協力校の実践より～

通常の学級と通級による指導の連携イメージ



個別の教育支援計画・個別の指導計画の活用

- ◎ 教育的支援の全体像をつかむ個別の教育支援計画と短期(学期や半年)的な目標と指導の具体的手立てを示した個別の指導計画を活用して、本人を含め目標を共有します。

Aさんの例

文字の読み書きに対する困難さが原因で自己肯定感が著しく低下していると思われ、小学校1年の2学期から通級による指導を開始しました。

係の仕事を率先して行い、周囲への気配りができます。読み聞かせが好きで、表情豊かに話したり、聞いたことをすぐに覚えて音読したりすることができます。

<個別の教育支援計画例> (一部抜粋)

④支援目標・内容

支援目標	支援内容
得意な力を活用した学習活動を取り入れ、書字への抵抗感を軽減する。	・通級指導担当と連携し、支援方法を工夫する。(学級担任) ・読み書きの困難さを軽減するための自立活動の指導を行う。(通級担当)

⑤合理的配慮

合理的配慮	適用期間
・書く量が負担過剰にならないようキーワードを示したり、必要に応じ手本を手元に提示したりする。	平成30年9月～

<個別の指導計画例> (一部抜粋)

	年間目標	支援・配慮
学習面	キーワードをノートに書き写すことができる。	・文字を書くことだけにとらわれず、考えを話したり、図や絵で表現したりする活動も取り入れる。 ・書くべき内容が分かりやすいように大事なキーワードを黄色チョークで示す。
特別の指導	通級指導教室の計画による	

通常の学級での指導に通級担当の助言や協力を生かす



通常の学級で、全ての子供に分かりやすい指導(◇)を意図的に取り入れ、さらに通級児童生徒等への個に応じた指導(◆)を計画的に行うことが、全ての子供が活躍できる授業づくりにつながります。この際に、通級担当(通級による指導担当教員)の助言や協力が有効です。以下に、ある学級での具体例を示します。

通級児童Aさん(書くことに困難がある)とBさん(聞き逃しが多い)が在籍する学級は、元気がよく、ざわつきがちがあります。そこで、学級担任は、通級担当の助言を生かし、次のような工夫を行いました。

- ◇導入時に集中力を高める活動を取り入れる
- ◇書く活動での作業速度の差を考慮した学習活動
- ◆よくできていることを定期的に称賛
- ◆マス目の変更や短冊カードの枚数の調整

学習指導案より(一部抜粋) 「しらせたいな見せたいな」(小学校1年国語)

過程	学習活動 評価項目 (評価の観点) [評価の方法]	時間	支援及び留意点 ◆支援を要する児童
つかむ	1. 言葉をつかもう ・音読をしよう。 「50音の暗唱」 「一から十までの数字」 2. 気付いたことを発表しよう ・実物投影機でウサギの画像を見せる。 ・気付いたことを話し合う。 3. めあてをつかもう めあて 見つけたことから、文をつくろう。	15	◇「言葉遊び」の音読で、国語学習への意欲を高め、音声での表現をより豊かにするようにする。 ・実物投影機を使って、ウサギの様子を振り返るようにする。 ・気付いたことの発表では、時間の許す限り、発言をさせて、短冊づくりの話題となるようにする。 ◆めあてをつかむ際に、Bさんの気持ちが切り替わらない時には、「Bさんは〇〇に気付いたんだね」などと本人の気付きを受容することで、めあてをつかむ場面に注意が向けられるようにする。
追究する	4. 気付いたことを書き込もう ・文の中の主語について確認する。	20	・短冊カードに書き込む際には、例示を基にして、主語と述語の関係を対応させて明確にする。 ◇短冊カードは、はじめに3枚ずつ配布し、追加できるようにする。 ◆マス目が小さくて書き込みにくい場合には、大きなマス目の短冊を渡すようにする(Aさん他)

集中力を高めるための導入の工夫は、Bさんだけでなく他の子供にも有効でした。通級担当との連携で用意した教材を操作する活動を通して、Aさんの書きたいという気持ちの高まりが見られました。連携がなければ、ひたすら書かせる指導で対応してしまうところでした。



通級による指導での障害に応じた特別の指導(研究協力校の例)

☆自立活動の内容を参考に個別の指導計画に基づき指導します。

- ・「運動」「生活」「心」の三つの視点で指導計画を立案しています。
- ・通級児童生徒が困難さに対応できる「手掛かり」に気付けるように、指導を工夫しています。

1単位時間の基本展開

- 予定の確認 (5分)
- 活動① 「体を使った運動」 (10分)
- 活動② 中心活動 (15分)
- 活動③ 「選択活動」 (10分)
- 本時の振り返り (5分)

☆通級ファイル(通級指導連絡帳)～通常の学級担任・保護者との連携～

連絡帳 記入者 妙義 (浅間) 様名
 ■指導日時 月 日() : ~ :
 通級指導教室より(指導の様子)

 担任の先生より(学級での様子や連絡事項等)

 ご家庭より(家庭での様子や知らせたいこと)
 ■次回の指導日時 月 日() : ~ :

- ・毎回の指導の様子を通級ファイルで担任と家庭にお知らせします。通級児童生徒が連絡袋に入れて通級します。指導終了時に持ち帰れるよう、選択活動時に記録します。活動時の写真も1枚貼付します。
- ・記入の時間を確保するため、選択活動時は1名の指導者が2名の児童生徒を指導するなど指導体制の工夫をしています。
- ・学級担任も一言コメントを付けて家庭に返却します。保護者は、この連絡帳を楽しみにしています。通級担当・学級担任・家庭の情報共有に有効です。



障害に応じた特別の指導では、毎時間のめあての確認と振り返りが大切で、これを通して、子供は自分の得意なことや困難への対応方法などについて自己理解を深めていくことが分かりました。

通級による指導担当教員からの助言で助かったこと

～経験者研修アンケートより～

・学習の困難さに対して、座席の配置、言葉掛けや指示の仕方、掲示物の配慮など、どのように支援するかについて、具体的なアドバイスをもらえました。

(2年目中学校教諭)

・うまくいかないことがある時、特別支援学級の先生をはじめ、学年や周囲の先生方に相談をすると様々な助言がいただけるので、いろいろ試してうまくいくまで考えたり、相談したりしています。

(2年目小学校教諭)

・本校の通級担当職員が、C4th掲示板に毎日異なる事例を挙げ、有効と思われる支援方法を載せてくださっています。複数教科の支援方法があり、本校在籍児童の実態に即しているため全職員がそれぞれ意識をすれば、専門的視点に基づいた対応が可能です。助かっています。

(5年目小学校教諭)

・その生徒はどんなことが得意で苦手なのかを教えてもらうことができ、自分の対応の仕方や言葉の掛け方、指示の出し方などを修正することができました。

・生徒のことを丁寧に見てくださり、〇〇が苦手だから□□するとよいなど特徴をつかんで分かりやすく伝えていただいています。

(5年目中学校教諭)

通級による指導担当教員との連携を活用し、全ての子供が活躍できる保育及び授業づくりを目指しましょう。

参考となる
資料等

○文部科学省編著 障害に応じた通級による指導の手引き 解説とQ & A 海文堂
○指導資料「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の活用Q & A

群馬県特別支援教育センター

http://www.nc.center.gsn.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=8294

○研修資料 各教科等における学習上の困難さに応じた指導の工夫の例

群馬県特別支援教育センター

http://www.nc.center.gsn.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=8003

参考となる
実践

○平成24年度 特別研修員研究報告書

「特別な支援が必要な生徒がいる中学校の通常の学級における国語科学習指導の工夫」

○平成26年度 長期研修員研究報告書

「小学校通常学級において気がかりな姿のある児童が落ち着いて学習するための支援の工夫」

◇コラム◇ 群馬県における「高校通級」

平成30年4月から、群馬県でも高等学校において実施する「通級による指導」が始まりました。この略称が「高校通級」です。

学校教育法施行規則の一部改正により、平成30年度から高等学校及び中等教育学校の後期課程において、大部分の授業を通常の学級で受けながら、一部の授業について障害に応じた特別の指導を特別な場で受ける指導形態、いわゆる「通級による指導」を実施できるようになりました。小・中学校等からの学びの連続性を一層確保しつつ、生徒一人一人の教育的ニーズに即した適切な指導（「自立活動」）を設定し、個々の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服することを目的としています。

自閉症、学習障害、注意欠陥多動性障害のある生徒のうち、自立活動が必要であると校長が認定した生徒が対象です。

群馬県においては、「サテライト方式」を採用しています。平成30年度は県内6カ所のサテライト学習室（中部・西部・吾妻・利根・東部教育事務所、総合教育センター）等において、11名の生徒が指導を受けました。サテライト学習室までの距離が遠くて利用が難しい場合には、6カ所以外での実施について相談に応じています。単位認定については、現行の教育課程に加える形を採用しています。そのため、例えば全日制の場合は放課後（午後5時まで）、定時制の場合は始業前（午前9時以降）の時間を利用します。

利用希望や相談は、在籍する学校が窓口となっています。